

清流

題字：芳野 充

平成29年4月30日

第4号

発行所：加来不動産(株)

発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流のように

相逢先一咲（あいあって、まずいっしょう）

「いまさら妻に笑顔であいさつなんて、できないな」

数年前、笑顔であいさつする、ということが思いやりの第一歩なんだ、と知ってから家庭内でのあいさつを省みると、とてもぶっきらぼうに「おはようございます」「おやすみなさい」を口に行っているということに気づきました。

しかしいざ笑顔で「おはようございます」と妻にあいさつしようとしても、「急に笑顔であいさつしだすと変にあやしまれるんじゃないか」「いまさら笑顔でなんて恥ずかしくてできない」「かっこう悪い」といういままでに染みついた良くない習慣が頭をもたげてきました。それからわたしなりに努力しつづけた結果、約三年ほどたったころから、ようやく妻に笑顔であいさつができるようになってきました。

いま思えばわたしの母には「おはよう」を言えないままでしたが、「おやすみ」とは伝えられました。しかし、その今世最後のあいさつも母の顔を見るでもなく、ましてや笑顔でもありませんでした。そう思うと、せめて笑顔であいさつが最後であつたらよかつたな、と思います。このようなことからいまでは妻や子どもたちに、笑顔であいさつを心がけています。

また笑顔ひとつで人の印象がまったく変わることも日々の生活のなかで感じます。たとえば、コンビニやスーパーで買い物をするとき、とても感じのよい笑顔で「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」という店員さんがいると、同じお金をはらう場面ですこし並んでもすすてきな笑顔のほうに並びます。あるいは、カウンター越しでたべる飲食店でもそうです。忙しそうにしているてもカウンターのなかから満面の笑顔で料理を出してくれると、ついついお箸もお酒もすすみますし、何より一緒に食事をしたかたとも会話がはずみます。逆に忙しいことでイライラした雰囲気や怒鳴っているような飲食店は、いくら料理がおしくてもお店の雰囲気がよくてもすぐにお店を出ることがあります。このように人と逢ったときには、笑顔ひとつで相手の印象や気持ちはおおきくかわることを実感します。

あいあって、まずいっしょう！

相手と逢ったときには、なにはともあれ、先ずニッコリとほほえみましよう。それが「相逢先一咲」です。（素心学塾塾長池田繁美先生より）

加来

寛

